



No.167 2024. 9

発行 真言宗豊山派
北田山 寶泉寺
所沢市北岩岡 130
編集 色摩 真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

仏教賛歌

ご詠歌



「♪唱あえ～たてまつる～」で始まるご詠歌は、仏さまの教えやお祖師さんの偉業、お寺の縁起などを歌詞とし、民謡調の調べにのせてお唱えする仏教賛歌です。札所をお参りした際、その寺院に伝わる和歌に節をつけて歌う巡礼歌として広まりました。

大正の時代に入ってからご詠歌を、ひいては仏教をより身近なものにと、多くのお寺で「講」と呼ばれる集まりが作られ、ここ寶泉寺でも月2回楽しくご詠歌の集いを開いています。

♪ 寶泉寺ご詠歌の集い ♪

日時:毎月第2・4水曜日午後1時30分～3時(終了後お茶会)

会場:寶泉寺るり洞(本堂地下) 会費: 500円/1回(お茶代として)

現在、女性5名男性3名(と住職)の計9名で和気あいあいと楽しんでいます。声を出して歌う気持ちよさに加え、仏教が学べることも魅力の一つ、という声も。どなたでもお気軽にお越しください。

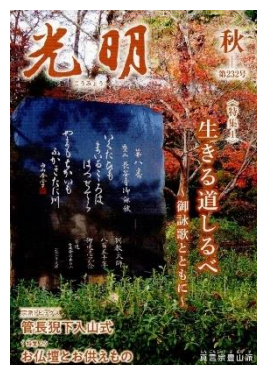
さて、ご詠歌は特に女性に受け入れられてきた歴史があります。これは私見ですが、女性が自由に外出したり発言したりすることが難しかった時代、お稽古があるからとお寺に集まった女の人たちがグチをこぼしたりしながらワイワイガヤガヤと楽しむサークルのような機能がご詠歌講にはあったのでしょう。

寶泉寺のご詠歌も、そんな楽しい時間を共有できるように、できるだけ長く続けていきたいと思っています。

この「るり光」と同じ時期に発行されている真言宗豊山派の季刊誌『光明』232号でもご詠歌が特集され、より詳しく解説されています。そちらも合わせてお読みください。



また、寶泉寺の YouTube チャンネルでは映像でご詠歌を紹介しています。番組の前半と後半に住職が一曲ずつお唱えしていますのでよろしければご覧ください。



光明232号

←の QR コードからアクセスできます

最後に寶泉寺ご詠歌の集いに長年通い続けてくれている講員さんの感想を紹介します。

ご詠歌をお唱えして

青木千恵子

ご詠歌を習い始めて12年が過ぎました。何の知識もないまま入りました。初めて教典を開いたとき、目にしたことのない譜面にびっくりしたと同時に不安な気持ちになったことを思い出しますが、ご詠歌の三十一文字(みそひともし)と和讃の七五調の歌詞と旋律に魅かれ今日まで続いています。

当初はお唱えに必死で鈴鉦(左右の手で持つ楽器)を使う余裕がなく、そこに到るまで一年かかりました。新しいご詠歌に入る毎に気持ちがゼロに戻りますが、ご住職が丁寧に時間をかけて教えてくださいますので、完成した時には達成感と充実感に満たされやっぱり続けて良かったと再認識します。

また、ご詠歌の時間ではご住職が仏さまの教えや仏教の歴史、長谷寺のことなど月二回の時間では足りないくらい教えてくださいます。

外に出での活動としては、全国大会、埼玉大会などで日頃の成果を発表できる機会があり、他にも秩父の札所巡りや総本山長谷寺参拝などにも行きました。平成28年初めての長谷寺参拝の折、朝のおつとめの際に本堂でたくさんのお坊さんのいるなか唱えた「長谷寺和讃」は清々しい感動が



ずっしりと心の奥底に今でも強く残っています。このように楽しい見聞もご詠歌を習っているからこそ味わえたことと思い、これからもご詠歌のお唱えを楽しみに励みたいです。

老僧のつばやき

20

四国遍路 その4

先日三回目のお遍路に出かけましたが、暑いさなかで歩き遍路はごくわずかでした。今回は四国西端愛媛県、43番明石寺からで、参拝初日徳島のフェリー下船から四国を横断したことになります。日本は元々山国だと言われますが、広い関東平野の一角に住んでいるとこんな感覚も薄れてしまいます。しかしこうして山や川、海を望みながら縦横に巡っていると四国はことさらに山国だと思わされます。地形図を見ますと平野部はわずかであることがわかり、そこには古くから集落、町が作られ幕藩体制を経て明治以降大藩の各所が県庁所在地になっています。そして山間の盆地や平坦地、山肌へばりつくように町や村があり、今では町々を結ぶ高速道路網が進んでいますがカーブやトンネルが多いのに気がつきます。山国ですから当然ですがその数や谷を越える橋脚の高さは驚きです。山国の日常の暮らしの大変さを想像するとともに、一方ではこれらの工事費用や行政コストのことなども考えさせられました。

ところで50年前の歩き遍路。関東ではまず見ることがなかった100円札が四国ではまだ流通していた時代です。通信手段について記憶をたどると、使ったのは主に郵便でした。巡礼者向けに郵便や荷物は行程を勘案しながら札所気付で送ると、納経所の窓口そばに預かっている旨の表示



がありその場で受け取るというものです。あちこちで見かけたものでした。今では小僧(しょうそう)の妻ですが独身時代のやりとりでその方法を何度もつかいました。ある札所、郵便を預かってくれたのが実は大学の後輩でその寺院の徒弟であり、小僧の来訪を待っていたというのです。ありがたく山門側の遍路宿にお接待を受けました。今回そのお話をしますとご本人はお留守でしたが、今では寶泉寺の若住職が宗派のご詠歌でお世話になるご縁もいただいています。

さて現在。携帯電話は当たり前、連絡も個人的にすみます。さらに今やインターネットは必需品、地図や各種情報の収集や予約などには不可欠のツールとして便利に使いました。

つづく

檀信徒のおつとめを読む ⑪



11. 光明真言 (p15、16)

真言とは「仏の言葉、真実の言葉」。インドの古語であるサンスクリット語を翻訳せずそのままの発音で唱えることで様々な効果をもたらす呪文です。

真言宗には例えば仏さまを称えるため、精神統一をするため等々、目的に応じて実に多くの真言が伝わっていますが、その全てを司るマスターキーのような真言がこの光明真言です。

光明真言

おん あぼきや べいろしやのう
まかぼだら まに
はんどま じんばら
はらばりたや うん

施餓鬼会厳修

本年も無事施餓鬼会が厳修されました。法要前に金管楽器隊 7 名 THE WESTERN によるコンサートが開催され、昭和の名曲、映画音楽からジブリのあの曲など迫力ある演奏に聴衆は大満足。今後も施餓鬼会では音楽をお届けしたいなあと考えております。



るりの会無事終了！



コロナ禍を除き 35 年続く小学生のお泊り会、「るりの会」を今年も無事終えることができました。子ども 23 名、大人 15 名でとても楽しい 1 泊 2 日を過ごしました。時代は変わっても小学生の元気さは相変わらず。また今年は特に子どもたちの柔軟な物の見方に改めて感心させられた貴重な時間でした。

編集後記

- 春のコロナ罹患に続き、お盆後の 8 月後半にも 39 度の熱を出しダウン。これはいかんとコロナ禍以降さぼっていた筋トレに励もうと市民体育館のジムで汗を流すもひどい筋肉痛…。少しずつ頑張るしかないなあ。
- ダイエットの本来の意味は「生活習慣」なんだとか。仏教ではよい生活習慣を「正命」というが、継続の大切さをお彼岸に改めて思うのでした。(真了)
- 遍路の道中、観光もかねて著名なところを巡っている。今回は松山城と道後温泉、どちらも外国人で賑わっていたが、なぜかお城には西洋人は一組だけ。聞こえてくるのは韓国語が圧倒的だった。なぜだろう。
- こしも柿が色づいてきた。剪定技術も上がっているらしく良いものになっている。一部接ぎ木によって種類が異なり、彼岸中はまだ渋いものもあるのでご注意ください(琴) Sep. 14. 2024